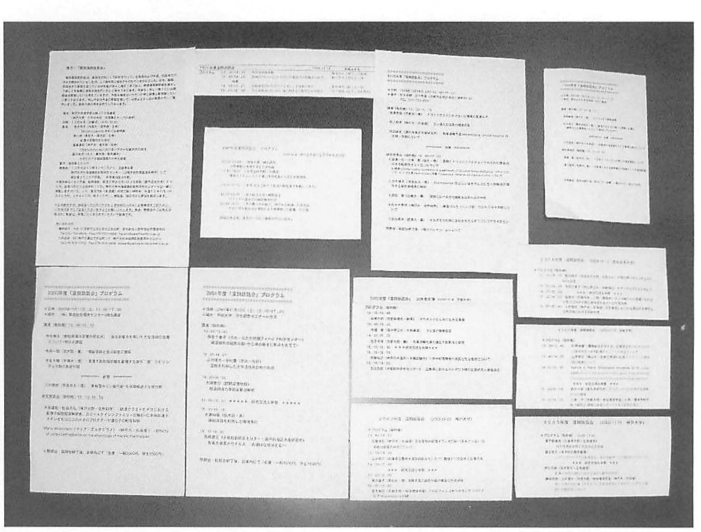
を形成する，広塩性紅藻アヤギヌの無性生殖化についての御講演でした。アヤギヌ類はその形態変異が著しく，形態が遺伝的に固定されているのか，環境に起因するのかを決定するのが難しく，生物地理学的研究があまり進んでいないそうです。そこで世界各地から採集されたアヤギヌについて，集団間あるいは集団内における形態の相違の解析，生殖的隔離の有無の解析，分子系統学的解析などを行い，種分化を研究されています。今回は，ある集団で四分胞子体から放出された胞子が再び胞子体になる無性生殖株が単離され，また交配群間でかけ合わせるとF1世代が無性生殖化されるという実験結果が紹介されました。多くの交配実験の結果より，距離を隔てた異所的分化だけではなく，近距離の集団間でも分化が多様に進んでいることが示されました。藻類の海洋における遺伝的交流は想像以上に多様な形式があり，地理的条件や生理的条件などの様々な要因が関連することがわかりました。

鯵坂哲朗先生・上井進也先生による御講演は東シナ海の流れ藻とアカモク，シダモク種群の形態変異についてでした。まず春季に東シナ海を悠然と漂う巨大な流れ藻を紹介されました。その大半がアカモクで，その出自については大陸沿岸由来とする説や日本沿岸由来とする説があり，不明な点が多いそうです。そこで由来を解明するために候補となる各地のアカモクと，さらには非常に形態の良く似た種として日本に生育するシダモクについて形態変異調査と分子系統学的解析を行ったそうです。アカモクとシダモクでは気泡の形態と雌雄性によってほぼ区別できるものの，各器官の詳細な測定値の比較では変異幅がそれぞれの個体群内で大きく変化し，同一種群の中での変異ではないかと推定されました。分子系統学的解析の結果においても両種間での種レベルでの変異が認められずこの２種が異種である可能性は低いと思われるそうです。丁寧で仔細な研究により新たな見方が浮かび上がってくることに大いに感心しました。

私は卒業研究中の学部生で今回始めて藻類談話会に参加させて頂きましたが，藻類の持つ多様性を源として様々な研究が行われていることを知ることができました。また第一線で御活躍される研究者の方々と暖かい雰囲気の中で交流できたことも大変良い刺激になりました。藻類学に携わる研究者にとってこの藻類談話会が今後ますます魅力的な学問交流の場となることを心より願っております。

最後に談話会の開催にあたり，お忙しい中準備をしてくださった川井浩史先生，羽生田岳昭先生（神戸大・内海域），幡野恭子先生（京都大院・人間・環境学）に感謝いたします。

（京都大学・総合人間学部）

四都物語　95年に復活した関西藻類談話会を前身として，藻類談話会は96年より毎年行われています。90年代前半にはJR西日本で京都，大阪，神戸を再発見するという「三都物語」のキャンペーンが行われましたが，藻類談話会は奈良も含め，四都の会場をめぐっています。参加者は全国各地から手弁当で集まり，95年からのプログラムを全部並べると（写真），通算して58の講演がありました。最近では，学生時代に藻類談話会に参加し，懇親会で目標や夢を語っておられた方々が，国内外で研究を進展させ，話題をお土産に演者として戻って来られます。時の流れと嬉しさを感じます。今年の秋はJR東海風に「そうだ　奈良，行こう。」，奈良女子大学で開催予定の談話会へお出かけになりませんか？　（幡野恭子）